

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

## イチゴ（育苗期）のハダニ類の防除対策の徹底について

イチゴの親株におけるハダニ類の発生が急増しています。本圃での発生を抑えるためには、ハダニ類の寄生のない苗を生産し、本圃へ持ち込まないことが極めて重要です。

については、下記を参考に、育苗期の防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況

1) 5月17日～22日に実施した定期調査におけるハダニ類の寄生株率は26.0%（平年6.7%、前年14.0%）であり、平年より多く、前回（4月16日～18日）の調査時（6.2%）に比べ急増した（図1）。

2) 発生程度は圃場間で大きく異なり、多発生した圃場も認められた（表1）。

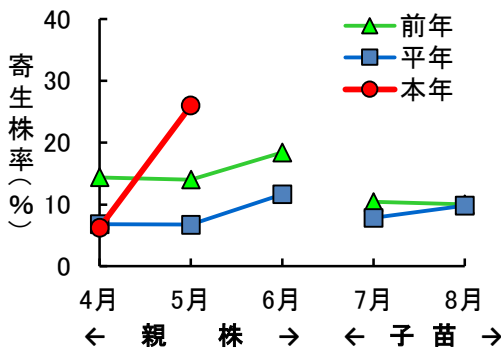


図1 ハダニ類のイチゴ育苗床での発生推移

表1 イチゴ定期調査圃場におけるハダニ類の発生状況<sup>注1)</sup>

調査圃場	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
寄生株率 (%)	4月 0	0	24	- <sup>注2)</sup>	0	0	8	16	8	0
	5月 8	0	40	100	4	0	0	36	36	36

注1) 4月、5月ともに育苗床の親株の調査。

注2) 調査を実施せず。

#### 2. 防除対策

1) 本圃でハダニ類が多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までに防除を徹底する。

2) 薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達の可能性が低いとされる気門封鎖系薬剤を活用する（表2）。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が低いものが多いので、5～7日間隔での2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。殺卵効果が認められる薬剤は、苗が軟弱徒長している時や、高温時、曇天が続く時など、葉害が懸念される条件では使用を控える。

3) ハダニ類は薬液がかかりにくい下葉の葉裏に多く寄生するので、散布前に古葉を除去した上で、薬液が葉裏にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

4) ビニル雨よけ下で育苗を行っている圃場では、ハダニ類の発生が増加する可能性があるため、特に発生状況を注視し、防除を徹底する。

- 5) 土着天敵の活動が活発になる時期であり、天敵への影響が大きい有機リン系・カーバメート系・合成ピレスロイド系薬剤を多用することは避ける。

表2 イチゴハダニ類に対する主な気門封鎖系薬剤と殺卵効果

薬 剤 名	殺卵効果 <sup>注)</sup>
粘着くん液剤	△
エコピタ液剤	△
ムシラップ	△
フーモン	△
アカリタッチ乳剤	△
サフオイル乳剤	○
サンクリスタル乳剤	○

注) △…ナミハダニの卵に対して殺卵効果が低い、○…殺卵効果が認められる。  
横山ら(2021) 関東東山病害虫研究会報 68:56-58を参考に記載した。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail [nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>

防除セ QRコード



総合防除計画 QRコード

